

# 「高度 IT 資格制度」特集号について

掛下 哲郎 (佐賀大学) 芝田 晃 (三菱電機) 旭寛治 (日立製作所)

## 1. はじめに

情報処理学会 IT プロフェッショナル委員会は、情報処理技術者のプロフェッションの確立を通じてその社会的地位の向上を図るとともに、わが国において情報処理技術が魅力ある分野として認識されるようにするための諸施策の一環として、高度 IT 資格制度の試案作成を進めている[1]。試案では、IT スキル標準に準拠した資格制度とすること、および、国際的に通用する資格とすることを基本的な方針としている。

IFIP (International Federation of Information Processing, 情報処理国際連合) は、IP3 (International Professional Practice Partnership) という組織を設立し、各国のメンバ学会を高度 IT 資格の認証機関として認定する取り組みを推進している。IP3 では ISO/IEC 17024 (適合性評価-要員の認証を実施する機関に対する一般的要求事項) や同 24773 (ソフトウェア技術者認証) のスキームに基づく資格制度の構築を要求している。現在、IP3 を通じた国際的な取り組みが進みつつあり、主要国が動き出していることから、情報処理学会も IP3 のメンバとして議論に参画している。

また、平成 21 年 7 月に政府の IT 戦略本部が発表した i-Japan 戦略 2015 には「高度デジタル人財の認定・認証」が盛り込まれている。政府の情報システム調達でも人材の質が重要視されており、大手 IT ベンダを中心として社内資格制度の構築が進みつつある。

情報処理学会 高度 IT 人材育成フォーラムでは、ソフトウェアジャパンや情報処理学会誌を通じてこうした取り組みを紹介し、議論を行ってきた[2-9]。高度 IT 資格制度は、高度な能力を持つ IT 技術者を可視化し、その社会的地位を高めるためだけでなく、情報システムの品質を高める上でも重要性が高い。そのため、情報処理学会の 2011 年度事業計画にも「IT フォーラムは、デジタルプラクティス編集委員会、IT プロフェッショナル委員会/高度 IT 人材資格制度設計 WG との連携を強化して、IT プロフェッショナルに魅力のあるソサイエティに向けて検討する」ことが盛り込まれている。

本特集号では、以上述べた様々な取り組みおよび、それらを踏まえた高度 IT 人材資格制度の試案を包括的・立体的に取りまとめる。これを通じて高度 IT 資格制度に関

する社会的認知度を高めるとともに、検討成果を学会会員や社会に問うことを目的としている。参考文献に挙げた各種の記事とも併せて読んで頂けると、より深く理解できるだろう。

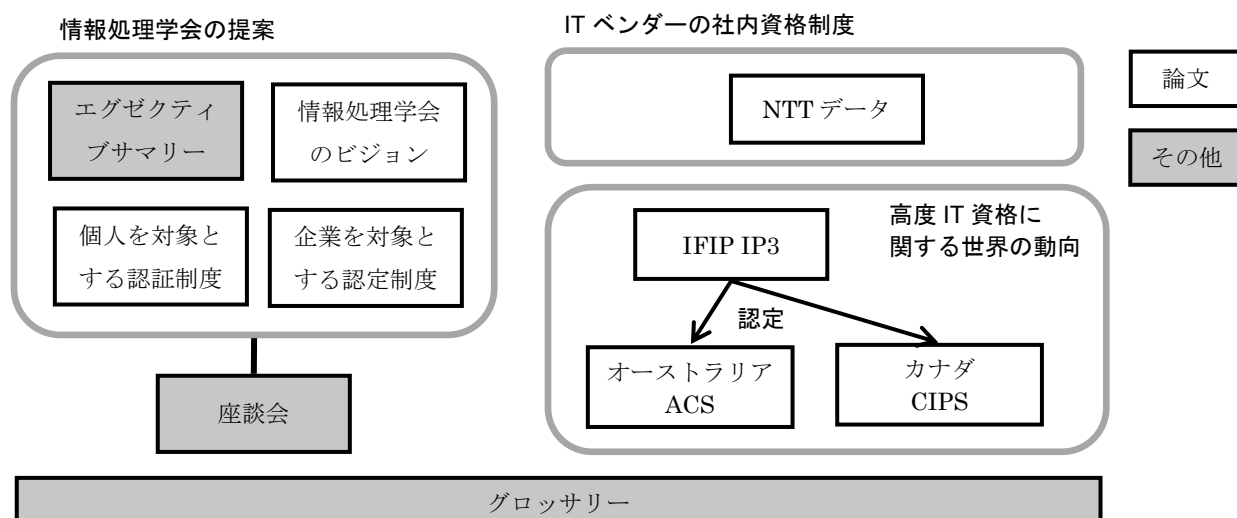
## 2. 本特集の論文について

本特集は、招待論文7件、エグゼクティブサマリ1件、座談会1件、グロッサリから構成されている。7件の論文は、日本のITベンダにおける社内資格制度の取り組みに関する論文1件、海外における高度IT資格制度の取り組みに関する論文3件、情報処理学会が提案する高度IT資格制度に関する論文3件で構成されている。これらの記事の関連を次ページの図に示す。

日本の大手ITベンダでは、社内資格制度を構築・運営しているケースが多い。いくつかの事例[5]が紹介された例はあるが、社内資格制度は人事制度とも関連が深いことから、詳細をまとめて論文として公表したケースは我々が知る限りない。そんな中で重木昭信氏による社内資格制度の取り組み事例は貴重な論文である。執筆をご快諾頂いた重木氏および情報開示に応じて頂いた(株)NTTデータには厚くお礼を申し上げたい。

海外では、IFIP IP3が情報系の高度資格制度の国際的相互承認を目的とした枠組みを構築している。また、オーストラリアACS (Australian Computer Society) とカナダCIPS (Canadian Information Processing Society) は高度IT資格制度を構築し、IP3の認定を取得して国際的通用性を確保した。海外からの論文3件はこれらの取り組みを紹介することを目的としている。グローバル化の流れは、情報分野においても顕著なものがある。グローバル化に対応するといった消極的な取り組みではなく、グローバル標準をリードする取り組みが日本としても必要だと考えられる。

情報処理学会が提案する高度IT資格制度に関する論文は、情報処理学会のビジョンに関する論文、個人を対象とした高度IT資格制度に関する論文、企業が実施している社内資格制度等を対象とする認定制度に関する論文の3件によって構成されている。これらの3論文はビジョンに関する論文を中心として互いに関連しているが、ほぼ独立して読めるように工夫してある。3論文を合計すると25ページに及ぶため、そのエッセンスをまとめたエグゼ



クティブサマリー（2ページ）を用意した。また、高度IT資格制度に対する主要なステークホルダ（経済産業省、IPA、ITベンダ企業、情報システムユーザ企業、技術士会）から関係者の方々にご出席頂き、情報処理学会の高度IT資格制度に関する座談会を開催した。その内容を座談会記事にまとめたので、参考にして頂きたい。

グlossaryには、本特集号を読むに当たって参考になるとと思われる情報を盛り込んである。特に、情報系の国際的相互承認の枠組みや歴史的背景、CPD、プロフェッショナル貢献、プロフェッショナルコミュニティの概念等一般にはあまり認識されていないため、やや詳しく解説してある。

### 3. おわりに

情報処理学会では、今後、各方面のステークホルダとも協議しながら高度IT資格制度の立ち上げや、情報系プロフェッショナルコミュニティの構築を進めて行きたいと考えている。それに当たり、2012年2月に開催したソフトウェアジャパン（SJ2012）では、本制度の概要を紹介し参加者からの意見を収集した[7]。座談会およびSJ2012を通じて収集した意見の一部を、本特集の論文に反映してある。

本特集号に掲載した高度IT資格制度「情報処理学会モデル」に対するご意見は、デジタルプラクティス巻末の読者アンケートを通じてお寄せ頂きたい。アンケートはWeb、電子メール、faxを通じて受け付けている。また、情報処理学会会員以外の方を対象とした意見募集も別途計画している。

本特集号の編集に当たっては、様々な制約がある中で論文執筆に積極的にご協力頂いた著者の方々にはまず感謝したい。我々が執筆した3論文については、特に公正を期するためデジタルプラクティス編集委員会の平田圭二

委員長および落谷亮理事のお二人に査読および共同推敲に参加して頂き、その過程で大変お世話になった。共同推敲にご協力頂いた編集委員の方々に対しても、この場を借りて深くお礼を申し上げたい。

### 参考文献

- 1) 旭: 高度IT人材の資格制度, 情報処理, Vol. 52, No. 10, pp. 1275-1279 (2011).
- 2) 掛下, 寛, 牛島: ITフォーラムへの誘い: 9. 高度IT人材育成フォーラム, 情報処理, Vol. 48, No. 5, pp. 496-498 (2007).
- 3) 掛下: 産学官連携による高度IT人材育成の現状と展望—高度IT人材育成フォーラム・公開イベント報告, 情報処理, Vol. 49, No. 2, pp. 187-193 (2008).
- 4) 高度IT人材育成フォーラム: 高度IT人材のための資格制度構築に向けて, ソフトウェアジャパン 2009. <http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/forum/software-j2009/it-f-pro-kodo.html>
- 5) 高度IT人材育成フォーラム: 高度IT資格制度に関する取り組みの現状: 日本と世界, ソフトウェアジャパン 2010. <http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/forum/software-j2010/program-it.html>
- 6) 高度IT人材育成フォーラム: 高度IT資格制度の現状と展望, ソフトウェアジャパン 2011. [http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/forum/software-j2011/itforum\\_kodo-it\\_program.html](http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/forum/software-j2011/itforum_kodo-it_program.html)
- 7) 高度IT人材育成フォーラム: 高度IT資格制度「情報処理学会モデル」, ソフトウェアジャパン 2012. [http://www.ipsj.or.jp/event/sj/sj2012/itforum\\_kodo-it\\_program.html](http://www.ipsj.or.jp/event/sj/sj2012/itforum_kodo-it_program.html)
- 8) 黒澤: 創造的で効果的な技術士CPD（継続研鑽）に向けて, 情報処理, Vol. 52, No. 12, pp. 1567-1572 (2011).
- 9) 小林: 日本技術士会が提供する初期専門能力開発: 修習技術者支援実行委員会の活動をとおりて, 情報処理, Vol. 52, No. 12, pp. 1573-1577 (2011).